上智大学経済学部　同窓会会報　エコノミアン
ECONOMYAN VOL. 50
◆発行日／平成28年4月15日　◆発行／経鷲会 千代田区紀尾井町7-1 上智ソフィア会内 ◆編集／広報委員会　編集長 小泉 基靖（1969経・経）
www.sophiakai.jp/blog/economyan/

ピタウ先生のこと

国際基督教大学　学長　日比谷潤子
（1976年 外仏、1982年 院外）

私は1976年に外国語学部フランス語学科に入学し1980年に卒業、引き続き大学院外国語学研究科博士前期課程言語学専攻に進んで82年に修士号を取得した。最後の1年を除き、学長はピタウ先生であった。その後、米国の大学院博士課程留学、慶應義塾大学勤務を経て、2002年に国際基督教大学（ICU）に転任した。本稿では、3人のICU関係者をとおして知ったピタウ先生について、私が出会った順に紹介したい。

1人目は、ホーキンス（有馬）佳世さん（2006年ICU卒業）。私の授業を履修し、卒業論文指導もすることになった。研究室で話している時にご両親とも上智ご出身（お父様：法学部、お母様：外国語学部）、かつ洗礼も結婚式もピタウ先生と分かりびっくり。有馬さんは大学2年次にイタリアを旅行した際、ピタウ先生を訪ねた。同国であちこち行った観光地のことは何も覚えていないが、忘れられないのは、先生を訪問して一緒に食事をしたこと、アッシジに行ったこと、バチカンのミサで中高時代（鹿児島純心女子）に習ったラテン語のミサ曲を一緒に歌えたことの3点。どれも、ピタウ先生がご両親に信仰を授けて下さった結果、カトリック教会に親しんで育ったからこその思い出という。

2人目は、宮尾舜助さん（1957年ICU卒業）。2007年に、ICUの元学部長を偲ぶ会で初めてお会いした。今から40年ほど前、東芝ご勤務時代に、ピタウ先生から上智大学の将来を検討する委員会の委員を依頼された。メンバーは、ピタウ先生以外はすべて学外から、日本人は宮尾さんのみで、議題は図書館・校舎等諸施設からカリキュラムの改善・充実まで多岐にわたった。最終回でピタウ先生は、これらの計画の実現には40億円を要するが、内10億円は企業等一般から募金を行いたい（それ以外はイエズス会及び大学の資金、同窓生や在学生保護者の寄付を充当）とご発言、すぐに続けて「ミスター・ミヤオ、なぜあなたに委員をお願いしたかお分かりになりましたか？私を土光敏夫氏に会わせてほしい。」とおっしゃったそうだ。当時の大口の一般募金はだいたい経団連主導の財界募金で、土光氏は東芝会長と同時に経団連会長でもあった。宮尾さんからこのことを伝えられた土光氏は「石坂泰三さんがご存命だったら、ピタウ先生に会うようにと言われただろう。分かった。面会をアレンジするように。」と即座に指示。土光上智大学募金委員長のもと、9億7千万円が集まったという。ちなみに、宮尾さんのお孫さんのお1人は、現在上智の理工学部に在学中である。

3人目は櫻井淳二さん（1984年ICU卒業）。2013年7月にICU同窓会の会合にみえ、開口一番「ソフィアンですよね。」と尋ねられていささか驚いた。その後、あれよあれよと言う間にアレンジして下さり、翌月ニューオータニの高層階で真田堀グランドやキャンパスを眺めつつ、数人で会食、私がピタウ先生にこの世でお目にかかったのは、これが最後となった。ご病気により若くして天国に旅立たれた櫻井さんの奥様とご両親は、お父様の転勤で数年を過ごした長崎の聖マリア学院在学中に揃って受洗、その後横浜に戻ってから所属した大船教会で、バチカンからお戻りになったピタウ先生との出会があった。新年にはピタウ先生がお宅にいらしたこともあるそうだ。奥様のご葬儀（マリア聖堂）も1年後（ザビエル聖堂）、3年後（クルトルーハイム聖堂）のミサも、先生の司式だった。

ピタウ先生は、研究者としても、教育者としても、大学の行政者としても、カトリック教会の指導者としても、実に卓越した人物であった。その学長時代に、日本での学生生活の大半を送った幸運に感謝したい。

環境への投資が活発化～ ESG 投資

福田順子（1968 年 経・経）

最近話題になっているのが「マイナス金利」ですが、経済学部を卒業しながら、初めて耳にする言葉でした。マイナス金利にすることで、日銀に預けるのでなくどこかに投資して経済活動を活発化させる、という意味だと知って納得しました。しかし、投資する先をどこにするかは教えてもらえないようです。マイナス金利について解説するつもりはなく、投資先について考えてみたいのです。

■ 大学として日本初の PRI 署名

昨年 11 月、上智大学は「PRI（Principles for Responsible Investment＝国連責任投資原則）イニシアティブ」(注)に、日本の教育機関として初めて署名したことが報道され、話題になりました。

公式発表によれば、上智大学の投資先は営利を目的とする企業への投資でなく、ESG（Environmental, Social, Corporate Governance）問題を解決する組織への投資だそうで、その背景には、教育研究費や学生への奨学金（返済不要の給付型）の原資を捻出するという目的がありました。奨学金受給者 1200 名のうち 380 名が留学生で、奨学金の原資を安定的に捻出するための資産運用です。したがって、ハイリスク／ハイリターンではなくローリスク／ローリターン型の“保守的で慎重な”運用です。公表された内容では、リターンは年率３％、価格変動リスクは年率６％以内に置くことが、上智大学の資産運用の原則だそうです。３％は、原資を維持しながら奨学金制度を充実させるために必要な利率に相当するとのことです。

ハーバード大学などアメリカの大学ではすでにこの動きは活発化していますが、日本の大学としては非常にユニークな取り組みといえます。

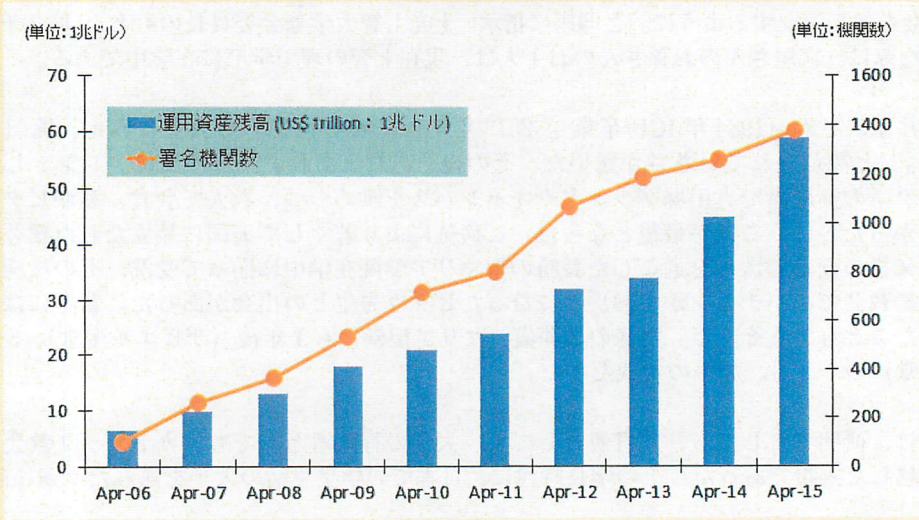
■ ESG 投資が増えているわけ

上智大学が目指す ESG 投資について少し考えてみたいと思います。

将来の利益を期待して支出することを「投資」といいますが、投資する人（投資家）には２種類あり、ひとつは、企業や団体が財源・資金を増やす目的で行なう機関投資家、もう１つは、金額的には少ないですが個人で株を買う個人投資家です。どちらの投資家も、今までは企業の財務情報などをもとに将来、利益を生みそうな分野や企業への投資を行なってきました。

その投資の傾向が、これまでは投資の対象と考えられてこなかった「環境」や「福祉」など、社会にとって意味のあることに熱心な企業や団体に投資する ESG 投資に動き始めたのです。ただし、現在は投資額の大きさもあって、機関投資家が中心です。ESG の内容としては、「環境」は二酸化炭素の排出量削減や化学物質の管理、「社会」は女性や人権問題への対応、地域貢献活動、「企業統治」はコンプライアンスのあり方、社外取締役の独立性、情報開示などを重視するという考え方です。ESG を重視することが、結

ESG 投資の運用資産残高



出所：国際連合責任投資資料

局は企業の持続的成長や将来の収益につながるという考え方に立っています。

この考え方は、2006年に国際連合が投資家がとるべき行動として提唱した「国連責任投資原則（UNPRI＝United Nations Principles for Responsible Investment）」がもとになっています。機関投資家は環境・社会・ガバナンス（ESG）の観点から投資すべきという原則を打ち出したのです。世界的にみると、機関投資家287、運用機関907、サービスプロバイダー194、総計1,388の機関（日本は33機関）（2015年6月）が賛同し、現在の世界の運用資産は約21兆ドル（約2,600兆円）、2年で60％も伸びました。運用資産の残高（ESG投資によって生まれた利益）は59兆ドル（7,300兆円）という巨大な数字です。上表でみると、2006年以降、ESG投資で運用した資産の残高が大きく伸びていることがわかります。

欧米では投資価値を測る新しい指標として関心を集め、ヨーロッパの機関投資家の運用資産の60％がESG投資であるのに対して、日本はまだ1％未満です。出遅れた日本ですが、ようやく機運が生まれつつあります。ESG選定12銘柄とTOPIXのリターンを比較したデータがありますが、それによると、過去3年間でTOPIXが「－17.5％」に対し、ESG銘柄は「+0.4％」ですから、ESG投資は良好なパフォーマンスを生むといえます。

日本生命保険は１２月に世界銀行発行の「サステナブル・ディベロップメント・ボンド」に約100億円、富国生命も同じく3月に約25億円を投資しました。そうした一画を上智大学が担っているのです。

上智大学の投資先は、発展途上国の低所得者に小口融資を行なうマイクロファイナンスを予定しているそうです。マイクロファイナンスは2006年にノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏が設立したグラミン銀行が代表的な例です。

日本経済新聞（11月30日朝刊）の記事によると、日本生命保険は環境関連に限定したグリーンボンドへの投資が500億円を超えたそうです。日本のESG投資は、現在のところ生命保険会社がリードして進んでいます。

これから、営利企業は財務情報中心から、環境や社会貢献などの持続可能性を重視した情報を積極的に公開することが必要になります。経済の活性化とはほぼ無縁のものと考えられてきた環境や社会問題が、今後、経済を活性化する重要な投資先になるとは、何とも嬉しい話です。（城西国際大学教授）

(注)PRIとは、国連のアナン事務総長（当時）の提唱で2006年に組織された国際的ネットワーク。
機関投資家が投資判断の意思決定プロセスにおいて受託者責任の範囲内で、「ESG」の視点を取り入れることを目的として策定された世界共通のガイドライン。

私の人生～それは海外への憧れ、そして上智入学から始まった！！

大坂靖彦（1968年 経・経）

子どもの頃映画で見て衝撃を受けた、庭のある大きな家、別世界のような生活。あんな世界があるのかと憧れ、なんとしても海外へと決めた。そして香川県大手前高校在学中、「人生は自分が思い描いたようになる」という言葉に出会った。

狙いを上智大学と定めた。その時から、ひたすら夢を描き、人生設計を描き、それを実現するための戦略を練り、実行する人生となった。上智はまさに、私の夢の実現の入り口だった。どうしても上智大学に入学したいとの思いからドイツ語で受験し、何とか合格。留学試験に失敗し、窮余の策でヒッチハイクでの北極を目指す1年間の旅。アルバイトしながらの苦しい無銭旅行。そこで、後日、人生の大きな目標となった、「ドイツへの恩返し」に繋がる出会いと経験があった。そして苦しい旅が逆に評価された就職活動。入社半年で松下電気産業での海外研修生拝命。実力をはるかに超えた上智大学への入学と、憧れのドイツ駐在員になれたことは、夢の実現への成功戦略として脳裏に焼き付いた。

その後、大きな挫折とともに、家業の家電店に戻り、掲げる目標を「経営者としての成功」に改め、40年間経営者として闘い続けた。年商7000万円からリタイヤ時339億円までに成長させた人生戦略と経営戦略。同時並行して力を注いできたドイツへのボランティア活動、（ドイツ及び日本でのスピーチコンテスト開催、上智大学ドイツ語サークル・ドイッチェルリンクの再興・サポート、ドイツ国際平和村、ザイン城）人生設計と経営戦略に関しての日・独での講演会、ドイツワインでの交流会の開催、そして人生の集大成として始めた経営塾。

2015年12月、地元四国新聞で『香川のリーダーたち』に選ばれ、10日間にわたり私の人生の連載記事

が掲載された。半生記にわたってチャレンジした私の物語が報告され、地方だけにかなりのインパクトがあったようだ。

また、今年2月には、瀬戸内テレビ夕方のスーパーJチャンネルで、11分の特集が放送された。

四国新聞『香川のリーダーたち』掲載記事

http://www.osaka-juku.com/member/Shikoku201512_no1-10.pdf

KSB瀬戸内テレビスーパーJチャンネル特集　http://www.ksb.co.jp/newsweb/feature/4863

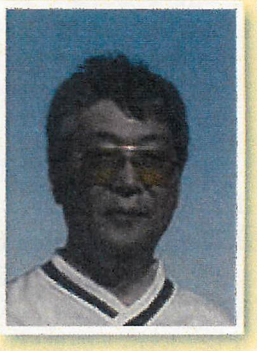
経営に関与し始めた頃、毎年のように次々と難題が発生。経営とはまるでもぐらたたきの様に悩み苦しみ続ける事と自嘲気味に決めつけた程。こんなに一生懸命頑張っているのに、一体いつになれば思い通りの経営ができ、社員もお客様も、そして私自身も満足してハッピーになれる日が来るのだろう。ストレスのない経営者としての自己解放の日をいつも夢見ていた。自分の能力・体力不足を補う為、あらゆる情報を収集・分析した。そして多くのコンサルタントとの出会い・別れを経て、メンターを探し続ける中、成功するためのキーワードが決まった。すると、社員は年を追って逞しくなり、社内の良き風土が出来上がっていった。業績は4-5年ごとに倍増し、究極の目的だった自己解放への手ごたえを感じた。生涯かけた体験をまとめ、かつて私自身が求めていたものを、私と同じような道を歩んでいる全国の仲間に提供したい。このシンキング・メソッド（体験＋理論で組み立てた実践経営学）を体得する事により、中小企業経営者の方がビジネスモデルを更に磨き上げ、確実にしかもスピーディに成果を上げる事を願い、塾生と面談している。

大坂塾は、2010年に東京10社香川県10社でスタートした。参加者は年を追って増加し、2016年度は新入塾生129社を数え、7年間で参加者は492社。今年の在籍者は1年目コース新入塾129社に加え、2年目コース81社、3年目コース28社、マスターコース20社、専門部会として、立地研究会、内観研修を開講している。業種は医療健康、小売業、IT・システム関連、士業・コンサル、教育関係、製造業、デザイン、外食産業、医師、芸能プロダクションそして国会議員と多岐にわたる。塾生規模は年商500万から800億円。従業員1名から4000名。4年目以降はマスターコースに集約。各コース、1日5-6時間以上の講義と討論により、経営上のあらゆるテーマを深掘りする。

昨年のトピックスとしては、9月にPHP研究所より、『幸せを偶然に掴む－セレンディピティの磨き方』を出版。11月には松下幸之助経営塾の特別講師を拝命した。

人生設計図で、2030年4月4日享年86歳で死ぬと決めていたが、出版記念祝賀会でメンターからの一言で、3年伸ばした。そろそろ走り続けてきたペースをダウンしたい。各地区の大坂塾も2016年度を最終年度とし、東京以外の塾の閉塾を発表。東京での大坂塾とドイツへの恩返しを最後のミッションとし、しばらく継続したい。生涯の夢を描き続け、実現すべくチャレンジし続けた私の人生は、海外への憧れ、そして上智大学への入学から始まった。　（ビック・エス インターナショナル代表取締役、日独交流振興協会会長）

上智大学での研究 ～ヘビ毒遺伝子の構造



田宮　徹（1972年 理工学部・化学科）

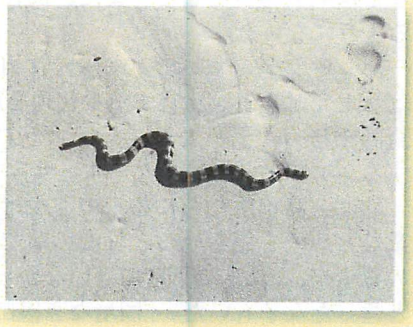
1968年に上智大学理工学部に入学以来、2014年3月まで40年近く上智大学にお世話になってきました。定年前の何年かは、体育会会長をしていたため、多くの体育会OB会の方達と知り合いになることができました。定年後は、時間が出来たため、テニス、ゴルフ、スキーを楽しんできました。今年のソフィアンズスキーに参加したところ、柔道部大先輩の小泉さんからエコノミアンへの寄稿を依頼されました。何を書こうか悩んだ末、経済学部の卒業生の方達には、あまり親しみのないものが良いのではないかと考え、理工学部での、私のヘビ毒遺伝子に関する約30年間の研究の歩みについて書くことにいたしました。

ニューカレドニアの*L.laticaudata*

地球上に生息するヘビ約2300種のうち毒をもつヘビは600種以上いるといわれています。コブラやウミヘビなど固定前牙をもつヘビ（約240種）の毒は神経毒で，これらのヘビに噛まれると死に至る場合があります。マムシやガラガラヘビの仲間からはこのような神経毒はまだ見つかっていません。

私の研究材料であるエラブウミヘビは、沖縄から東シナ海に生息するウミヘビです。一生海で暮らすウミヘビ科のヘビとは異なり、主に昼間は、陸に上がり、夜海に餌を採りに出て行く種類で、コブラ科のエラブウミヘビ亜科に分類されます。日本近海には、エラブ

ウミヘビ（*Laticauda semifasciata*）のほかに、ヒロオウミヘビ（*L. laticaudata*）、アオマダラウミヘビ（*L. colubrina*）が生息しています。ヒロオウミヘビとアオマダラウミヘビは、南太平洋の島々まで広く生息します。ニューカレドニアとトンガには、以前はアオマダラウミヘビに分類されていたものが、固有種の*L. saintgironsi*と*L. frontalis*であることが、筆者が企画実施した探検旅行がきっかけで明らかになっています。



ニューカレドニアの*L.saintgironsi*

エラブウミヘビ亜科に属するヘビの毒は、コブラなどと同じ神経毒で、毒性は非常に強く（キングコブラの約6倍程度）、咬まれると、筋肉麻痺が起こり、横隔膜の麻痺により呼吸困難になり、死に至ります。しかし、エラブウミヘビ亜科に属するウミヘビは、非常におとなしく、このヘビに咬まれたとの報告は殆どありません。私自身も、沖縄、南太平洋でヘビを素手で採取しましたが、採取するときに、攻撃されたことも、口を開けて威嚇されたこともありません。

神経毒に限らず、ヘビ毒の主成分はタンパク質です。従って、肉などと同じ様に、口に入れば消化されますので、危ないことはありません。但し、内臓に潰瘍などがある場合には、そこから体内に入りますので、その限りではありません。

エラブウミヘビの場合、毒を作っている毒腺（人の場合唾液腺に相当）細胞で生産されるタンパク質の80％近くが毒タンパク質です。ヒトを含め、その個体を構成する細胞が持っている遺伝子は、どの細胞をとっても同一です。従って、毒ヘビの毒腺では、遺伝情報の中から、毒の遺伝子のみを活性化させ、毒タンパク質を作り出す仕掛けが働いているはずです。このことを明らかにするためには、染色体上の毒遺伝子の構造を明らかにしなければなりません。タンパク質が作られるとき、染色体上の遺伝情報は、RNAに転写され、そこから不必要な部分を取り除き（スプライシング）m RNAが出来上がります。従って、染色体上の遺伝情報を明らかにするためには、まずm RNAの構造を明らかにする必要があります。

1985年にUKのNewcastle upon Tyneで開催された、毒に関する国際学会（International Society on Toxinology）で、世界で初めてヘビ毒をコードするm RNAの塩基配列を発表しました。この時の学会参加者の反応は、そんなことをして何が面白いのというようなものでした。ところが、3年毎に開催される次の国際学会では、多くの研究者がその重要性を理解し、研究に着手していました。私の研究は、染色体上の毒遺伝子の構造を明らかにすることにありましたから、1985年以降は、研究をそちらにシフトいたしました。1991年のSingaporeの国際大会では、世界に先駆け、ヘビ毒をコードする染色体遺伝子の構造を明らかにいたしました。

海を泳ぐニューカレドニア特有種の
L. saintgironsi

現在に至るまで、エラブウミヘビがどのようにして毒の遺伝子のみを活性化させるのか、その仕掛けについて明らかにすることは出来ませんでしたが、ヘビ毒遺伝子については、多くのことを明らかにすることが出来ました。これは、ひとえに、この研究を支えて下さった上智大学と、研究に携わって下さった研究室の学生さん達のおかげです。

【上智大学名誉教授、JSPS（日本学術振興会）
サンフランシスコ研究連絡センター長】

アジアのために残りの人生を捧げたい

加藤暁子（1983年 外国語学部比較文化学科）

日本の若者は内向きになっている。しかし、そうさせているのは大人ではないだろうか。

全国から高校生170人を選抜して福岡県宗像市で行っている2週間のサマースクール「日本の次世代リーダー養成塾」（塾長は榊原定征・日本経済団体連合会会長）を主宰して12年。これまでに2000人を超える塾生を世に送り出した。

「世界中の人々が最善の医療を受けることができる社会を創る」とカンボジアで医療関連ビジネスの会社を立ち上げた塾生。バングラデシュで貧しい高校生たちが大学に進学できる道を切り拓いた塾生。外交官

など国家公務員として、また、商社、金融、国際機関など様々な分野で、塾生がようやく社会に貢献できるようになった。

マレーシアのマハティール元首相、明石康・国連元事務次長、宗教学者の山折哲雄氏、ミスター円と呼ばれた元財務省財務官で塾長代理を務める榊原英資氏、滝久雄・ぐるなび会長ら各界で活躍する約25人が講師を務め、ディスカッションをする。また、2週間をかけて一つのテーマのもと、議論して政策を策定する「アジア・ハイスクール・サミット」を開く。

塾は、高校生たちに将来の夢や目標を考えるきっかけづくり。最終日には、一人一人壇上で、将来の職業などの夢を語らせる。仲間の前で、口に出すことは、その後に努力するモチベーションとなる。車いすの塾生が、これまで思ってもいなかった「留学をする」と宣言をした。「お札になるようにデカイことをする」と言った女子もいた。「国境なき医師団に入る」「国連で世界の平和に貢献したい」。夢は果てしなく大きい。上智大学外国語学部比較文化学科（当時）で私は文部大臣を務めた永井道雄先生のゼミで、比較教育学を学んだが、まさか、そのころ、将来、教育の道に進むとは思ってもいなかった。大学3年生の夏休み、被爆者の事実を米国に伝えるため、米国の地方新聞社の記者を広島と長崎に招待するプロジェクトのボランティア活動をしたことがきっかけになって、学歴不問で毎日新聞記者に採用された。卒業に必要な単位は終わっていたので、大学の粋なはからいで、4年生は籍だけ置いて、毎日新聞福岡総局に赴任、翌年、卒業することができた。

福岡に7年、東京本社経済部で財務省など担当して、タイ・バンコクに社費留学。96年にアジア全域の経済を担当する特派員として、小学生の娘を連れて香港に駐在。97年の香港返還、アジア通貨・経済危機で激動のアジア各国を取材して回った。

当時、マハティール氏が首相として、米国や国際通貨基金（IMF）主導の経済改革ではなく、独自の固定相場制などの経済改革を断行したことに興味を持ち、インタビューしたのをきっかけに、毎日新聞にコラムを連載していただき、何冊かマハティール氏と本も出版した。その時、発展途上国からの「ものの見方」を学ぶことができたのが今の自分につながっている。

仕事人生を40年と仮定すれば、最初の20年は、人のやってきた仕事や社会の現象を伝える仕事だった。通貨・経済危機で人々が突然、貧しくなり、暴動が起きる現実を目の当たりにして、アジアのために残りの自分の人生を捧げたい。41歳の時に、毎日新聞を退職して、慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所に。アジアに加え、日本の地方分権を研究することとなり、地方から夢のある高校生を世界に送りだす教育プロジェクトを改革派知事、経済界と設立することとなった。

設立当初、リーダーに焦点をあてた育成は、公平な教育の提供という意味で、疑問視する声も大きかった。しかし、生徒会やクラブ活動などでリーダーとなる高校生たちに「ノブレス・オブリージュ」を教えることは大切。世のため、人のために尽くし、人々の先頭に立ち、先を見通すことのできるリーダーは、混沌としたこの時代、最も必要な人財である。

一昨年から中国、韓国、モンゴル、タイ、マレーシアの高校生を招待し、日本人と近隣諸国の次世代が心底から議論することにした。昨年、韓国から参加した高校生は「私たちから感情的な歴史の見方の障壁を超えることができるかもしれない。日本の友人と思いを共有する機会は、人生にとってかけがえのない経験となった」と塾後に語ってくれた。

チャレンジ精神を養い、夢を追いかけ、国境を越えて互いを理解できるように次世代を仕向けること。これが私に課せられた急務。そう思い、獅子が崖から子を突き落とすように大海に送り出す。確実にその手ごたえを感じることができるようになった。13年目の春、継続は力なりである。

（「日本の次世代リーダー養成塾」専務理事）

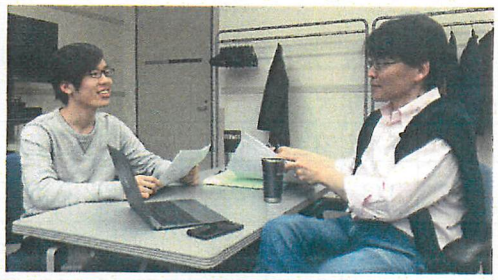
研究奨励金受賞者

経鷲会研究奨励金受賞に際して

三輪剛也（在学4年生 経・営）

この度、私は東洋経済新報社発行の「一橋ビジネスレビュー」において網倉久永教授と共著した株式会社ジェイアイエヌのビジネスケース「メガネ業界におけるSPA事業モデル」が掲載されたことに加え、メガネ業界内でのSPA（製造小売業）の研究を評価していただき、奨励金を受賞させていただきました。ビジネスケースでは、それまで業界内で前例がなかったメガネの製造から販売までを自社で一括して行うビジネスモデルを深く掘り下げ、前例のないビジネスモデルが収益をあげるまでの過程を分析しました。

一橋ビジネスレビューの掲載に至るまでの期間は長期間で、ケースの執筆も大変でしたが、非常に良い経験になりました。2014年の2月ごろにゼミの指導教官でもある網倉教授とケース執筆の話が持ち上がり、経済学部ホームページに掲載されたケースの完成が2015年の5月ごろ、一橋ビジネスレビューの掲載が



網倉教授（右）との１枚

2015年の９月と、合計で１年半以上の時間がかかりました。執筆の中で私は経済学部ホームページ版ケースの原稿作成と付属資料の財務データの作成・編集を執り行いました。商業誌である一橋ビジネスレビュー版では、私にとって商業誌への原稿掲載が初めての経験ということもあり、網倉教授に非常に大きなお力添えをいただきました。ケース執筆に必要な資料やデータは簡単に手に入るものばかりではなく、時には日本の眼鏡市場について調査資料を発行している出版社の社長さんに直接お会いしに行き、研究のために資料の提供をお願いすることもありました。必要なものを得るために自分の足を動かすことは多くの苦労が伴いましたが、ケースの雑誌掲載という目標のために苦労した経験は非常に貴重で、今後の人生において活きるものだと感じています。

受賞式の際に山田教授がおっしゃっていた言葉で非常に印象深く感じたことがありました。今回皆さんに授賞する奨励金は経鷲会をはじめとした経済学部OB、OGの方々の志である、という旨の言葉です。学生の活動に対して先輩の皆様からの志を受け取るということはお金や授賞式といった目に見えることを超えた意味のあることなのだと痛感させられました。奨励金が手渡された後に山田教授からの言葉を思い返し、今自分が手にしている奨励金は先輩方からの思いなのだと感じています。

奨励金を受賞してから、ご縁があってソフィア経済人倶楽部の新年会にもお誘いしていただき、そちらにも出席しました。自分が知らないだけで、上智出身の先輩方が繋がっているコミュニティがあるのだということがとても新鮮に感じました。また、先輩方だけではなく教職員の方々も会に出席しており、卒業生や教職員が分け隔てなく繋がれるコミュニティがあることは大きな財産だと考えさせられました。

研究奨励金受賞者

経鷲会奨学金へのお礼

中嶋優子（在学３年生 経・経）

この度は、経鷲会から名誉ある奨学金をいただき、心より御礼申し上げます。

私は現在、経済学部経営学科開講のゼミナールに所属し、製品開発論について学んでおります。私が所属している経済学科では、日本だけではない世界中の経済の歴史、金融政策や財政政策など、経済全体の事柄について学んでおります。しかし、演習では、今までとは違った視点から経済をみる力を身につけたい、経済学よりももっと身近に感じられる経営学についても学ぶことによって視野を広めていきたい。そのように考え、経営学の製品開発論という新たなジャンルに挑戦してみることにしました。

演習では、主に経営学書の解釈、企業との合同企画、他大学との合同ゼミの３つの活動を行いながら、経営学について学んでおります。

経営学書の解釈では、毎週、企業の経営分析の手法に関する本を読み、各自で分析したことを発表しながら、ゼミの仲間との活発な意見交換を行っております。経営学書の解釈を通して、私自身見聞を広めることが出来ただけではなく、今までの自分には思いもよらなかった新たな視点や斬新な発想を仲間たちから吸収することができました。

企業との共同企画では、３年生の春学期から１年を通して文房具会社との共同製品企画を行いました。３年生全員で100以上ものアイデアの中から、ゼミ内での話し合いや企業との打ち合わせを通して、最終的に６つの案にまとめ、自分たちなりのプレゼンテーションをさせていただきました。この共同企画を通じて私が痛感したことは、新しいものを生み出すことの難しさです。斬新で独自性のあるアイデア、実現可能性、実際に販売したときの需要…。色々な要素を様々な側面から考え、それらを高い水準で実現しなければヒット商品を生み出すことはできないのだということを実感させられました。上場会社という社会的に地位のある企業と、私たちのような学生が共同で製品開発を行う機会を与えていただいたことは、大変光栄なことであり、関わってくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

他大学との合同ゼミでは、グループごとに、経営学書の解釈でインプットした知識を実際の企業の財務諸表を用いて分析し、一本化したアイデアを発表する場を設けていただきました。最終学年を迎えるにあたり、大きな自信とグループの仲間達と一つのことを成し遂げることの喜びを感じることができ、大変貴重な経験となりました。

経済学部の統計ご紹介

上智大学経済学部学生数（2015年5月1日現在）　　資料：総務局広報グループ「統計 2015」

	1年次 /Freshman			2年次 /Sophmore			3年次 /Junior			4年次 /Senior			合計 /Total		
	男 /M	女 /F	計 /T	男 /M	女 /F	計 /T	男 /M	女 /F	計 /T	男 /M	女 /F	計 /T	男 /M	女 /F	計 /T
経済学科 Economics	111	55	166	104	58	162	128	49	177	143	57	200	486	219	705
経営学科 Management	108	80	188	93	66	159	108	76	184	148	82	230	457	304	761
計	219	135	354	197	124	321	236	125	361	291	139	430	943	523	1,466

SophiansNet & Wine Seminar の活動について

小國敏雄（1978 年 経・営）

19 年前、秋元征紘先輩を代表幹事として経済学部卒業生を中心に異業種間交流を目ざし、学生との親交をも目的として、SophiansNet を結成しました。その後、8 月を除いて毎月、Sohpians Club で、シニア・ワインアドヴァイザーでもある上原経鶩会会長を講師として世界のワイン試飲セミナーを開催してきました。

近年では、ソフィア祭実行委員会のメンバーを招待し、学内の情報交換を緊密にしてきました。例年、ASF のときに SJ ガーデンで開催している経鶩会の集いは、10 年前にワインセミナー参加者であった ASF 松本元実行委員長から初めて参加要請があって実現したもので、今日に至っております。

定例会では男性会員のみ 3000 円頂き、学生、女性は無料です。なお、12 月は忘年会を兼ねてボジョレーヌーボを 1 樽用意、1 月は新年会を開催しております。来年は 20 年の節目を迎えますので、祝賀会を予定しております。今後の SophiansNet 定例会（会場 Sophians Club）は以下の通りです。是非、ご参加下さい。

- 4 月 11 日（月）予定（PM6:30 ～）～イタリアン白ワイン特集
- 5 月 11 日（水）予定（PM6:30 ～）～イタリアン赤ワイン
- 5 月 29 日（日）ASF. Wine Seminar（会費無料），SJ Garden（AM11 時～ PM3 時）
- 6 月 17 日（金）予定（PM6:30 ～）～ロゼワイン特集
- 7 月 11 日（月）予定（PM6:30 ～）～スパークリング特集
- 9 月 12 日（月）予定（PM6:30 ～）～ Summer Cocktail 特集

参加の申し込みは「小國敏雄（Toshio Oguni）」宛、下記連絡先に予定日 5 日前位までにご一報をお願いします。なお、申し込多数が予想されるため、返信がないことを予めご了承下さい。

E-Mail: aprex@aprex.co.jp　TEL：090－3698－9923

（不動産鑑定士、中央不動産鑑定㈱代表取締役）

経鶩会だより

三輪一夫（1978 年 経・営）

経鶩会から、各種ミニ企画イベントをお知らせします。
皆様のご参加をお待ちしております。

1）坐禅会、毎月第一金曜日、18：30～20：30
　曹洞宗成願寺（HP 参照）、中野坂上駅より環六渋谷方面徒歩 3 分
　坐禅 40 分、般若心経写経 40 分、講座 40 分、参加費 500 円

2）鶴見の大本山「總持寺」で坐禅を体験できるセミナーのご案内を戴きました。
　定員は 50 人ですので、落ち着いた環境で心静かなひと時を迎えることができると思います。
　詳細は以下の Web サイトをご覧ください。
　http://shogai.tsurumi-u.ac.jp/course/detail/486/

3）ミニ企画　上方落語を楽しむ会
　江戸落語とは一味違う　桂米朝一門の実力派　桂まん我（カツラマンガ）が演ずる爆笑人間模様。春の宵に如何でしょうか。
　日時：平成 28 年 5 月 23 日（月）午後 6 時 30 分開演
　会場：らくごカフェ（神保町　神田古書センター 5 階）
　会費：2500 円（終焉後　まん我師匠と懇親会予定）
　申し込み：三輪一夫　090-4126-5251

4）オールソフィアンズ（ASF）の集い、ワインフェスティバル（無料）
　5 月 29 日（日）、12：00－16：00、SJ ガーデン

－年会費納入のお願い－

同封の「払込票」にて年会費 3,000 円の払込をお願い致します。あわせて、寄付金によるご支援・ご協力をお願い申し上げます。